

我が校の強み弱み分析・評価シート

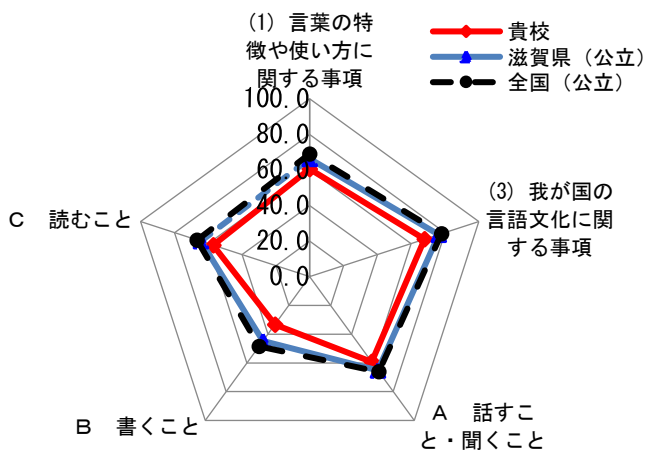
【調査目的】

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について～我が校の強み・弱み～】

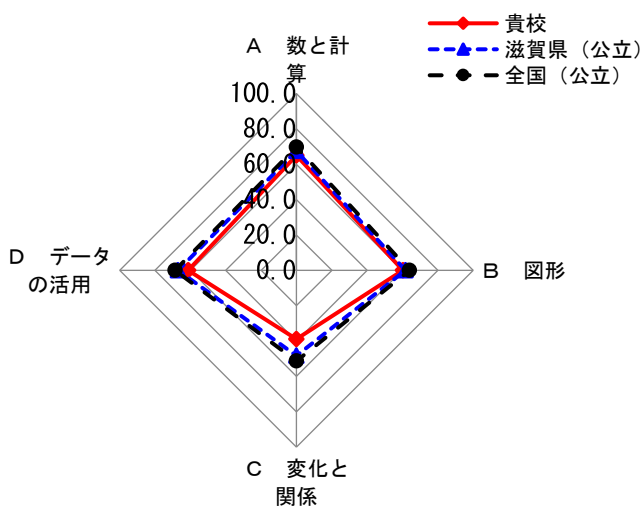
今年度は国語科、算数科、理科、児童質問紙で調査が行われました。3教科とも無回答率は少なく、最後まで問題を解こうと頑張ることができました。

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。



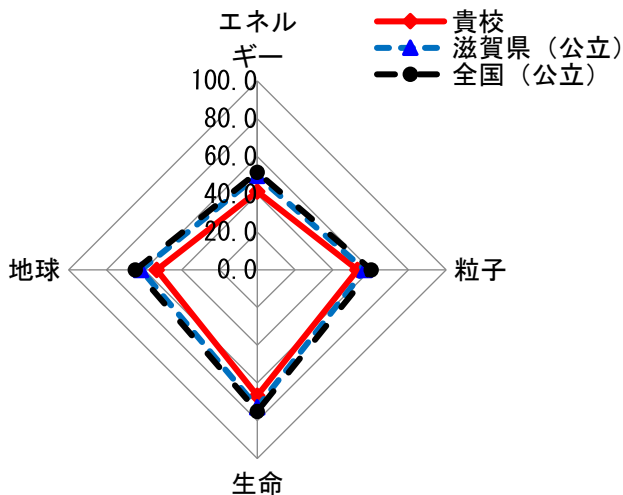
国語

- ほとんどの問題で全国・滋賀県の平均正答率を下回りました。特に全国的に課題とされる「書くこと」の領域は、本校でも課題となっています。
- 「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」問題は、滋賀県の平均正答率を上回りました。
- 「録画」「反省」「親しむ」を漢字で書く問題の正答率が低く、漢字の定着に課題が見られました。



算数

- 「二つの数の最小公倍数を求める」問題と、「図形を構成する要素に着目し、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解する」問題で、全国の平均正答率をわずかに上回りました。
- 全体的に全国の状況とよく似た傾向を示していますが、特に「割合」や「変化と関係」の領域で全国・滋賀県の平均正答率を下回っています。割合を分数で表したり、比例の関係をを使って未知数を求めたりすることに課題が見られました。
- 「分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察する」問題において、全国・滋賀県の正答率を下回り、課題が見られました。



理科

○「表から気づいたことを基に昆虫の食べ物に関する問題を見いだす」ことや「水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解しているか」の問題で、滋賀県の平均正答率を上回りました。

●「提示された情報や観察などで得た結果を分析、解釈して、自分の考えを持つ」ことについて、全国・滋賀県の平均正答率を下回り、課題が見られました。

●他教科同様、短答式や記述式の問題になると無回答率が高くなり、正答率が低くなる傾向が見られました。また、「実験に使用する器具の名前を書く」問題の無回答率も高く、課題が見られました。

児童質問紙

○「学校に行くのは楽しい」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した児童が多く、全国・滋賀県の平均を上回りました。また、「いじめは、どんな理由があってもいけない」と回答した児童も多く見られました。

○「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と回答した児童が8割を超えています。前向きに、あきらめずに最後まで取り組む姿勢がうかがえます。

●「毎日朝食を食べる」「同じくらいの時刻に寝ている」など、基本的な生活習慣に関する質問で、肯定的な回答の割合が全国・滋賀県の平均を下回りました。また、「1日のゲーム時間」や「携帯電話やコンピュータの使い方の約束を守れていない」割合が全国・滋賀県の平均を上回り、学習時間は平均を下回っています。

指導の充実に向けて

- ・「人・物・時間を大切に」を合言葉に、安心して通い、楽しく学べる学校づくりに努めます。
- ・丁寧な学習の積み上げ、基礎基本の定着を図ります。
- ・ICTを活用することで、学習意欲の向上や、より効果的な学びとなるように工夫していきます。
- ・文や式などの意味を理解したり、考えを説明したりする機会を意図的に作り、対話をしながら学びを深めていくことができるようにします。
- ・自分の考えと他の人の考えを比較したり、文や図表などを活用したりする活動を通して、多面的に考察し、学びを深めていけるようにします。
- ・家庭との連携を深め、家庭学習の工夫・改善を行うことで学習習慣の定着を目指します。